

米子市日吉津村中学校組合立箕蚊屋中学校

～福祉の心を育てる教育の実践～

福祉教育の重点目標

- 人間尊重の基盤に立って、共に生きる、人間性豊かな生徒の育成に努める。
- 社会の一員としての自覚と、社会福祉への関心と理解を深め、社会福祉への参加の態度を養う。
 - (1年) ・互いに認め合い、自他の生命を尊重する心情を育てる。
 - ・社会福祉に対する理解と関心を育てる。
 - (2年) ・温かいふれあいの心を持って、互いに助け合い、励まし合う態度を養う。
 - ・社会連帯意識に基づく社会奉仕の精神を身につけさせる。
 - (3年) ・身近な人たちに、自発的に貢献できるような実践力を養う。
 - ・進んで社会福祉の向上に寄与しようとする態度を身につけさせる。

1. 子どもの人権学習会

1年生はユニセフ協会から講師を招き、世界の子どもの現状やユニセフのSDGsに関する活動を知る学習を通して、子どもの権利について理解を深めた。

【生徒の感想】

- ・世界には、毎日8時間かけて水をくみに行く生活をしている人がいると知り、私たちは蛇口をひねればすぐに透明で綺麗な水を飲んでいると思うと、自分はとても贅沢なことをしていると実感しました。これからは特に水の使いすぎや水を出しっぱなしにすることがないようにしたいと思います。
- ・世界には学校に行きたくても行けない人や、児童労働の子どもが1億6000万人もいることが分かった。勉強が当たり前でできるこの生活は、ものすごくありがたいことだと思った。



2. 手話体験学習

1年生は、手話普及支援員や講師の方々を招き、手話活動を架け橋として、ろう者とろう者以外が互いを理解し、共生する社会の実現を目指す態度を育成することができた。

3. 県立米子養護学校との交流

今年度は生徒作品の交流という形で活動を行った。本校では生徒が体育祭で作成したクラスワッペンを県立米子養護学校に展示したり、文化祭では、県立米子養護学校の生徒作品を展示したりし、多くの生徒の興味をひいていた。本校生徒の作品は、けんべい祭りにて展示された。

4. 生徒会の活動

○地区別生徒会

総合的な学習の時間の一環として、校区にある各公民館から担当者の方を招き、中学生へのさまざまな活動要請や地域の思いを話してもらった。それに対して、中学生を活性化させるための提案をするなど、多くのアイデアを出しながら意見交換をすることができた。

ある地区では、公民館祭で中学生が企画・運営を行うコーナーを持たせてもらい、自分たちが提案した催し物を実際に行った。

また、地区の運動会には多くの生徒がボランティアとして参加し、地域に貢献した。



○小中連携での取り組み

各校の代表生徒が集まり、校区小中リーダー交流会を実施した。校区の目標である「相手を知り、受け入れることで、みんなの居場所をつくる学校」をゴール（最終目標）として、自分たちにできることについて話し合った。中学生がコーディネイト役となり、意見交換を行った後、それぞれのアイデアを発表し、各校で実施した。

○福祉委員会の活動

福祉委員会が呼びかけ、赤い羽根共同募金、緑の募金活動を行った。中心となる生徒が募金の使われなどを調べ、委員会や学級で共有し、目的意識を持って取り組むことで、多くの募金協力を得ることができた。また緑の募金還付金でチューリップの球根を購入し、玄関前の花壇に植えて学校の緑化を行った。



～おわりに～

本校では、「自ら学び、互いにつながりあい、社会に貢献する生徒の育成」を目標に、授業だけでなく生活全般において、生徒が互いに関わり合い、学び合う場面を取り入れた活動を行ってきた。

今年度は、体育祭での地区別生徒会を中心とした競技や、小学校とのリーダー交流会、地域ボランティア活動への参加などを積極的に行うことができた。これらの体験を通して、人とのつながりを大切にしながら、社会福祉に対する理解と関心を高め、福祉活動に積極的に取り組む姿勢を育てていきたいと考える。今後も、生徒の主体的な活動が校内外で広がっていくように、あらゆる場面で福祉教育の視点を持ちながら、継続的な交流や体験活動を続けていきたい。